

第107回フォト句優秀作品（20年7月6日）



千円の床屋泣かせの  
モジャ頭（三春）



チョト待てこの俺様を差し置いて（アキヤ）



葉隠れをした

積りかな

見えてるよ

(進一郎)

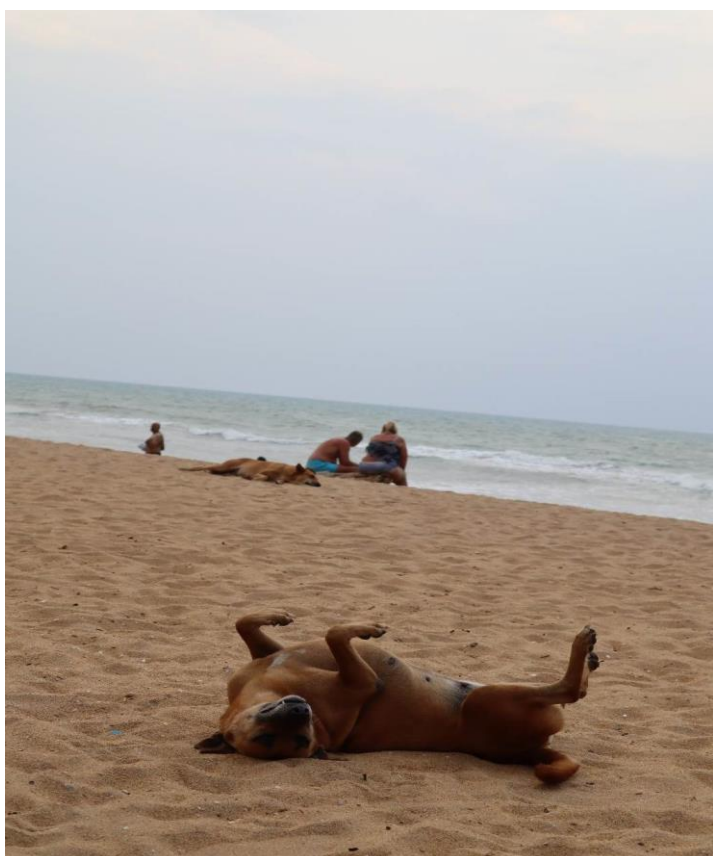


密な場所 ストレス発散

蜜な時 (和彦)



巢籠りや梅雨の季節と  
なりにけり(健夫)



寝返りの背のひんやりと  
夕涼み(昌康)



焼いてよし煮てよしビールもっとよし(正二)



千本の手が揃うまであと何年(アキヤ)

寸評：評価に値する作品は上位3点のみだが、フォト句会の四か月ぶりの再開を祝って2点句まで掲載することとした。

1) 千円の床屋泣かせのモジャ頭 三 春

帯広の植物園での大樹の写真。モジャモジャの茂みから床屋を連想するセンス。俳味の効いた面白い作品だ。

2) チョット待て！この俺様を差し置いて 中村 アキヤ

若いカップルに水を差す邪魔者。若者は後ろ肢で蹴飛ばす構え。齢を取ってもこんな邪魔者にはなりたくない。

3) 葉隠れをした積りかな見えてるよ 長尾 進一郎

植え込みに隠れていた可愛い黒猫と偶然目が合った。思わず声を掛けたくなった作者の優しい気持ちが感じられる。

4) 密な場所ストレス発散蜜な時 大月 和彦

スリランカの洗濯場の風景。忙しく手を動かしながら楽しそうにオシャベリをしている。二つの密と蜜を有効に使い分けている。

5) 巣籠りや梅雨の季節となりにけり 下山 健夫

コロナ禍のため自宅に閉じこもっている間にいつしか梅雨の季節になってしまったと言う感慨を詠った。紫陽花の季節感がよく出ている。

6) 寝返りの背のヒンヤリと夕涼み

松田 昌康

痒い背中を砂にこすりつけている犬の珍しい写真。夕涼みとはとても思えないが、背景の砂浜と海が何かを語っている。

7) 焼いてよし煮てよしビールもつとよし

矢澤 正二

コロナで外出できず家庭内で撮った苦し紛れの茄子の写真。誰もが共感できる句に救われた感あり。

8) 千本の手が揃うまであと何年？

中村 アキヤ

古いアルバムからの中国桂林でのナイトショウの写真。聾啞学校の生徒の出演だそうだ。



付け句：今月は松田さんの出題。ミャンマーでの屋台の風景。  
食材は何かよく判らないが、余り美味しそうには見えない。

1) 快哉を叫ぶ胃袋開口健 新田 由紀子

ゲテモノ喰いで有名な開高健をもじった句。

2) 食レポは噛み切れずともあっ柔らかい! 新田 由紀子

どんな固い食材でも食レポのアナウンサーは柔らかいと褒めるように指導されている由。

3) 親父さん! コウモリ塩で三本ね 三 春

コウモリは塩焼きが一番とか

4) 蝙蝠も食べてみようか蛇蜥蜴 矢澤 正二

なんとも評論できない句の典型。

5) 屋台村旅情に浸りひとり酒 大月 和彦

御題写真に合うかどうかは別として、この句が一番読んで  
落ち着く句だ。品格を感ずる。

以 上